

# 時事新報

時事新報

海陸の運輸交通

青年俳優の獎勵  
時事新報の金牌

演劇は文明の事なり俳優は文明の人なり復た凡俗世界の玩弄物に非ず既に文明の人とあれば其技術も亦百級の文明事業と共に歩を興にして發達すべきは論を俟たず左れば梨園の巨擘市川團十郎、尾上菊五郎、市川左團治等凡そ老練の輩は藝道既に已に大成して世間自から一定の評論の的に成る可き限りにあらずされども其以下の後進生は則ち然らず日夜勉勵先達の遺蹟に就て進まんとする其趣は正に是れ春風に開くの花夏雨に浴するの草一夜の間に面目を改めて人を驚かすもの多し依て時事新報社は曾て同院の相撲に銀盃を贈りて大に力士社會の氣風を引立てたる先例もありかたし世間の好劇家を煩はし是等日新の俳優中に就き誰れか今度歌舞伎座の五月芝居に大に技術を進めて觀客を悦ばしめたる者か各々其見る所に從ひ優の地位如何に拘はらず役割の不利を問はず唯その腕前の進歩を標準にして投票せられんことを乞ふ者なり其投票法は時事新報の此社告文を切抜き指定の場所に目指す俳優の名を記して本社へ送付せらるるなり其投票票を計へ最多數の者及び以下二名へ金牌を贈る可し亦是れ梨園獎勵の一助たる可き事

### 時事新報社

廿六年五月

**投票法**

- 一、投票せんとするものは時事新報の此社告文を切取り被撰俳優とある下に其俳優の名を記入して本社に送らるべし
- 一、投票は一枚に一名限り記入すべし
- 一、撰ぶべき青年俳優は今度歌舞伎座へ出勤するものに限る
- 一、投票は来る六月五日を期しての切りに直ちに開票して其得票最も多きもの三名に本社より金牌を贈る

### 投票の切の延期

俳優投票の切期日も急遽切迫したる折柄歌舞伎座にては當行大當の事として閉場期日延期の沙汰あるを聞き各地方は勿論府下の好劇家よりも撰々延期の申込みありては其後に見届したる觀客に遺憾なからしむる爲め期日延期の必要あれば本社は更らに切期日を來月五日迄延期するものとしたり

時事新報は全國中紙面の最も發達新聞紙なり 時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

第三千六百六十八號  
明治廿六年五月三十日 火曜日  
舊曆癸巳四月十五日 (丁卯)  
出版部 四時三十分  
印刷部 四時三十分  
發行部 四時三十分  
電話 二五九  
西曆一千八百九十三年

今の世界に於ける運輸交通の利器は鐵道汽船の二に其發達進歩の如何は以て其國商賣の盛否振不振を下するに足る可し即ち西洋商賣の諸國に於ては常に此二業に力を注ぎて進歩を競ふ所以なれども日本の有様を見れば立國の本は商賣に在りとの道理既に明白にして何人も異論を容るゝものなきに拘はらず陸の鐵道と云ひ海の汽船と云ひ其發達甚だ鈍くして航海業の如き着手以來の年月既に久しと雖も僅に内國の沿岸を航するのみにして未だ外洋に遠征を試みるの場合に至らず鐵道の進歩長足なりと云ふも官私の線路を合せて僅々一千何百哩の延長に過ぎず誠堪へ難き次第なれども何分にも人心氣運の非なるは如何とす可らず我輩の常に遺憾と爲る所なりしに近來社會の有様は次第に變化を遂げし各銀行を始めとして富豪金満家の類は何れも遊金の多きに苦しみ利息の割合は日にますます下落するのみ即ち社會に資本の増加したる徴候にして資本既に豊富なれば事業もろくに起らざるを得ず自然の勢にて今や國中の資本家は何れも企業に着手しつゝあるのみと云ふも我々の企む可き業は如何と云ふに一般の人心は必ず鐵道の敷設に向ふと云ふに現に既設の會社の如きは線路の延長又は新設を計畫しつゝあるものも少なからずと云へば若しも今の鐵道敷設法を止めにして自由にして私設を許可するものとせば鐵道事業は續々民間に發起して今後數年の間に非常の進歩を見るものと云ふべし此事に就ては別に大に論する所ある可しと雖も兎に角に今後の人心氣運は鐵道の事業に向ふ可きものと自然の勢なれば苟も人為の故障を除き其向ふ所に從て之を妨げざるべきは事の發達進歩疑ひある可らず左れば等しく運輸交通の利器と稱する中に鐵道の方は今後の望、充分にして豫想組の掛念なかる可しとする一方の航海業は之と異にして更に大に注意を要するものあり從來日本の海運は専ら内地の運送を主として沿海の航海に止まれども本來航海の目的は内地に在らずして外に在り今後鐵道の敷設着々歩を進めて幹支の鐵路國中に縱横するに至れば内地の運輸交通は今日までの如く海運に由るの必要を減ずると同時に貿易の發達いよいよ速にして海外の交通いよいよ繁多ならんとする其上に移住殖民の説も次第に盛んに其實行を見んとするの勢あり海運を以て單に内地の海岸のみに止まらしむるは實に胸甲なき始末にして國の隆盛繁昌は是も望む可らざるのみか航海業其物の前途も或は遂に如何なる衰運を見るやも知る可らず世家の最も注意すべき所なり蓋し鐵道の事は從來の經驗もありて其有利の業たるは一般に認むる所なるが故に社會の狀況一變して國內の資本に餘剰を感ずるに至れば世間の人心は促さずして自から之に赴くに反し海外航海の業に至りては從來會て之を試みたるものなきを以て恰も

## 官報

○文部省訓令第七號 北海道廳府縣 委任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校 職員ノ同官等又ハ同等級内ノ席次ハ俸給額ニ依リ俸給 額同キトキハ任補ノ前後ニ依リ其他ハ高等官席次ノ 例ニ依ルヘキ儀ト心得ヘ

明治二十六年五月二十九日 文部大臣井上 毅

○逓信省告示第五百四十四號 來ル七月一日ヨリ左記各局へ郵便爲替及貯金事務ヲ開 設ス

明治二十六年五月二十九日 逓信大臣伯耆黒田清隆

千歳國廳後泊村郵便局 千歳國廳野田郵便局

## 報

○郵便電信の料金減額 前號の紙上に記せし如く其筋にては電話事業を市の業に移さんとの内議もあ る由なれども獨り此の事のみならず郵便電信事業の改 良と擴張とに就ても種々考察中にして取敢へず十六 以下二錢の定めなる現在の郵便料を減少し又一音信 十錢の控なる電信料を幾分か減減しては如何の説もあ る由なれども郵便料の減額は一時収入の上に影響を及 ぼして隨分後戻りをなすべく從て今日の収入額に等し き計數に其實下額の増殖し來る迄には如何に少なく見 積りても二箇年度位の経過は必要なるべしと雖も電 信の方は之に反して今より幾分の料金を減ずるも現在 の収入額に切込むもなかるべければ比較上料金の 減額は郵便の方より電信の方を望むるが如しと云ふ 兎に角電信に關する經費は常に収入を超過し郵便に 屬する収入は經費を償ふて尙ほ六七十萬圓の剩餘を見る 程なれども兩の剩餘中より電信の収入不足を填補して 差引きて近年漸く五十萬圓に近き収入増加を見る位な れば料金減額の事は單に兩者の關係上より見ても尙ほ 充分の熟議を要する事なるべしと云ふ

○郵便切手類賣下の統計 明治四年三月即ち 我邦に郵便制度を施行してより昨二十五年の三月本日 に至る足掛二十二年間に於ける郵便切手、葉書、封皮、 封紙の賣下枚數及び收入金を其筋に於て調査せしに其 總額は左の如くなりといふ

## 噴灰の分析

福嶋縣信夫 噴灰の分析 福嶋縣信夫の附著せし農業五頁目を半切橋村を標本として其を 併和して細粉となし去る二十

切手	十二億三千
葉書	七億五千七百
封皮	二億九
封紙	十九億九千二百九
合計	二十九億九千二百九
切手	二千六百二十七萬六千九百
葉書	七百二十五萬三千
封皮	六百三千
封紙	一萬九千
合計	三千三百六十一萬三千九百

## 神戶商業會議所の總會

○神戶商業會議所の總會 二十四日の夜定式總會及び臨時 事務報告及び前年度の會計報告並に 所聯合會の出席委員二名を撰選す 會を贊成して委員二名の外更には どの説に決し會頭には山本龜士 郎、豫備員に横田孝史の三名を撰 選す農商務商工局長より横田木 依頼ありしを以て已に調査し けて一應審査の上意見書を起 無事閉會したる由なり

## 土地收用法適用の議中

○土地收用法適用の議中 博覽會場敷地の買収事件に付て 三郎氏より土地收用法を適用せ 申したるを以て去る二十五日の 協議の未最早日となりては他 手段なければ收用法を適用する 同法の適用を上申するものと なるよし

## 受渡米検査に就て

○受渡米検査に就て 東 切の喰合高は今猶三萬石以上 には前検査の申出を賣方よりな 紙に記せしが何分にも天氣都合 比若し難かりしが去る二十五 同所の検査役并に關係者一同 深川高橋の九市蔵に出張し秋 三口許を検査する中又々雨模様 には米割を入れたる儘當日検査 して秋田米中には早くも多少 のと云ふ最も同米は傷み易き 間に異議の生じては好からず 待ち居るよしなるが其實際 となりたれば月越一齊に検査 たらんとて成べく引き延ばす べし

## 一等賞の肥後米

○一等賞の肥後米 客目 日本産米の品評會は其審査の たる模様なりとは既に當時の本 査に於て一等賞即ち金盃を得た の見本米を府下某米商店に送ら 其の味を試みし當業者の説 引續く精力乏しく齒に付くの 事右等以て腹白米の持前とも云 多し又粘力の乏しきは米の性 乾燥の過度にして脂肪の脱却 輸出のライスカレーには適當 の評なりしと

1-1-1